＜研究論文＞

縄文時代における東京湾東沿岸地域の海進海退（２）

武　田　宗　久

はじめに

筆者は昭和６３年３月『千葉市立加曽利貝塚博物館開館２０周年記念特別講座講演集』に、表題の（１）として次の目次をたて、別に各地域の「貝層・貝ブロックを含む遺跡」の一覧表と、付図１（現東京湾東岸における貝層・貝ブロックを含む遺跡の分布）・付図２（真間川流域の貝層・貝ブロックを含む遺跡の分布）・付図３（真間川流域の主要貝層・貝ブロック形成時期別分布①早期・前期）・付図４（真間川流域の主要貝層・貝ブロック形成時期別分布②中期・後期・晩期）を添えて掲載したことがある。

目　　次

Ⅰ　東京湾の範囲と海底地形

Ⅱ　縄文時代の海進と東京湾の誕生

Ⅲ　奥東京湾の成立と貝塚分布の状況

Ⅳ　現東京湾西岸地域の貝塚分布

Ⅴ　現東京湾東岸地域の貝塚分布

北半部　（１）真間川沿岸

今回はその続きとして、北半部（市川市～千葉市）のうち、船橋市・習志野市・千葉市西北部をとりあげ、これらの地域を流れる主要河川の沿岸に分布する貝塚並びに貝ブロックを含む遺跡の分布状況を概観することにする。なお、全体図として付図１を再度掲載した。

Ⅴ　現東京湾東岸地域の貝塚分布

北半部

（２）　海老川沿岸（付図５参照）

海老川は下総台地に数ケ所の水源をもち、長津川・北谷津川・念田川・高根川・宮前川・飯（は）山満（ざま）川・中野木川・宮本川となり、これらが北から南に突き出た夏見台と呼ばれる大きな舌状台地を東西に狭んで南下しつつ合流し、船橋市の市街の中央を過ぎて東京湾に注ぐ。

このうち夏見台の西側の谷を開削して流れる長津川沿岸の上流付近にある宮前貝塚（１０７）は阿玉台・加曽利Ｅ・堀之内・加曽利Ｂ式期、これよりやや南に下がった枝谷の周辺にある中

法伝（１０４）・後貝塚（１０８）・前貝塚（１０９）・前貝塚堀込（１１０）なども、すべて純鹹または主鹹性の中～後期の貝塚群である。

長津川流域で最も古い貝塚は上述の貝塚群からさらに南下し、現海岸線から約５００ｍほど隔てた小谷の北側の台地（標高１５ｍ）の位置にある飛ノ台貝塚（１１２）である。この貝塚は早くから著名な純鹹性の点在貝塚で、ハイガイを主とし、マガキ・ハマグリ・イボキサゴ・ウミニナ・マテガイなどが多く、昭和５３年の報告によれば早期後半の野島・鵜ケ島台式期である。（註１）

次に夏見台の東側の谷を流れる北谷津川と念田川流域には貝塚は見当らないが、高根川の左岸にある上高根貝塚(113)は貝層中に堀之内・加曽利Ｂ式を含み、貝層外に安行Ⅲａ式を出土する遺跡である。

前期の貝塚は宮前川と飯山満川の下流域に点在する。宮前川右岸の唐沢台(114)は貝層外に茅山式、貝層中に黒浜・諸磯式、飯山満川右岸の取掛西(120)は関山・黒浜式、取掛(119)は関山式と思われる。昭和50年に報告された飯山満東貝塚(118)の発掘報告によれば、この貝塚は標高24ｍ、水田面との比高約５ｍで、貝塚の南側にある谷底のボーリング調査では、成田層上面に堆積した沖積世砂層上面の標高が約５ｍである。貝層中に黒浜・諸磯ａ・諸磯ｂ・諸磯ｃ・浮島Ⅰ・浮島Ⅱ・浮島Ⅲ式を含み、貝層外に夏島・稲荷台・五領ケ台・勝坂・加曽利ＥⅠ・加曽利ＥⅡ・加曽利Ｂ・安行Ⅰ式を出土する前期の点在貝塚である。（註２）

飯山満川流域にはこのほか中期の貝塚がある。飯山満南(117)は阿玉台・加曽利Ｅ式期、谷奥にある３つの貝塚のうち、沢之台(121)は小貝塚で加曽利Ｅ式期、高根木戸(116)は径約110ｍの点在馬蹄形貝塚で開口部が西北にあり、竪穴住居址75のほか多数の貯蔵穴群が発掘された。貝層は勝坂・阿玉台・加曽利ＥⅠ・加曽利ＥⅡ・加曽利ＥⅢである。（註３）高根木戸北(115)も点在馬蹄形貝塚で、遺跡の３割が発掘され、数軒の竪穴住居址と小竪穴が発見された。貝層は加曽利Ｅ式であるが、未発掘部分に堀之内・加曽利Ｂ式期のものがある確率が高い。（註４）

これらの奥貝塚の標高は約27ｍを測り、谷面は10～12ｍ、この谷を約３㎞下ると海老川本流に合流し、更に３㎞下ると東京湾に至るにも関らず、出土する貝類はハマグリ・マガキ・アサリ・ウミニナ・オキアサリ・シオフキ・イボキサゴを主とする主鹹性のものである。さらにこれらの奥貝塚の背後に横たわる下総丘陵の分水界標高30ｍを越えたところに、やはり前記諸貝塚の貝類とほとんど変らない貝層を示す海老ケ作貝塚(126)がある。標高27ｍ、径約200ｍの点在馬蹄形貝塚で、印旛沼の最西端に開口する桑納（かんのう）川の最奥部に位置し、貝層中に阿玉台・中峠・加曽利ＥⅠ・加曽利ＥⅡ・加曽利ＥⅢ式土器を含み、貝層外に堀之内式を見ることは極めて注目に値する。（註５）

中野木川左岸にある小貝塚中野木台(124)は阿玉台・加曽利Ｅ式期、最奥にある薬円台貝塚(122)は貝層中に阿玉台・加曽利Ｅ・称名寺・加曽利Ｂ式、貝層外に諸磯ａ・安行Ⅱ・安行Ⅲ

a 式の土器を発見する。（註６）

次に宮本川左岸にある点在馬蹄形の宮本台貝塚(125)は後期の称名寺・堀之内Ⅰ・堀之内Ⅱ・加曽利ＢⅡ式期に伴なう数軒の竪穴住居址と小竪穴群を発掘している。（註７）

（３）　菊田川沿岸（付図６参照）

菊田川は河口から2.25㎞さかのぼると分岐して田喜野井川と三山（みやま）川となる。この田喜野井川の水源にある滝台貝塚(123)は貝層中に堀之内・加曽利Ｂ・安行Ⅰ・安行Ⅱ式を含み、貝層外に加曽利Ｅ式土器を出土する後期の貝塚で、これと同時期の遺跡が三山川の支谷にある三山貝塚(127)である。菊田川の中流左岸には堀之内式期の小貝塚東宮(129)と径約60ｍの馬蹄形貝塚藤崎堀込(128)がある。加曽利ＥⅡ・加曽利ＥⅢ・称名寺・堀之内Ⅰ・堀之内Ⅱ・加曽利ＢⅠ・加曽利ＢⅡ・安行Ⅰ・安行Ⅱ式の土器を見るが、貝層形成の時期は称名寺・堀之内Ⅰ・堀之内Ⅱ・加曽利ＢⅠ式までと推定されている。ハマグリが多くアサリ・ツメタガイ・サルボウ・アカガイ・バイ・マガキなど16種類が確認される。（註８）

（４）　浜田川沿岸（付図７参照）

菊田川と同程度の小さな川であるが、右岸の本・支谷に早期後半の小貝塚がある。すなわち本流域の清水作貝塚(133)は鵜ケ島台・茅山式期、支谷の奥にある花咲貝塚(132)は茅山式期、最下流の小谷に面する大道遺跡(137)は鵜ケ島台・茅山下層・茅山上層・花積下層を包含するが、この遺跡の炉穴群の１つに茅山上層式の貝ブロックが発見されている。（註９）また花咲貝塚の東側の谷を隔てて加曽利Ｅ・堀之内式土器を伴なう屋敷貝塚(131)は馬蹄形貝塚と報ぜられているが、著るしく破壊され、旧状を推測することができない。

左岸では奈良熊貝塚(134)が加曽利Ｅ式期、奈良熊南貝塚(135)は加曽利Ｅ・堀之内・加曽利Ｂ式期、椎崎貝塚(136)は中期であろうが詳細は不明である。

（５）　花見川沿岸（付図７参照）

花見川の水源は下総台地の分水界をなす標高30ｍ付近で、延長約７㎞、ほとんど直線に近い流路をもって東京湾に注ぐ。これは江戸時代の享保９年（1724）・天明３年（1783）・天保14年（1843）の３回にわたり、印旛沼に注ぐ新川（旧名平戸川）と花見川を結び、印旛沼を干拓してその水を東京湾に放流するために行なった大規模な開削工事と昭和21年～46年の印旛疎水路の造成によって、自然の流路が人工的に破壊され、これに関連して沿岸一帯の地形が著るしく変貌したためである。現在花見川本谷の上流域に貝塚が全く存在しないのはこのためではなかろうか。ただ最近の開発に伴なう発掘によって、馬場塚遺跡(300)から、加曽利ＥⅣ式期の貝ブロック（イボキサゴ）を含む土壙が１ケ所発見された。（註10）

中流域右岸では支谷に茅山上層式期の小貝塚城山(138)、後期の坊辺田(139)と築地(140)がある。坊辺田貝塚は堀之内・加曽利B・安行Ⅰ・安行Ⅱ式期の土器を含む点在貝塚、築地貝塚は東西100m、南北125m程の馬蹄形貝塚であるが、貝層は厚さわずかに20cm前後と薄く、イボキサゴ・ハマグリ・オキシジミ・サルボウ・ツメタガイ・アカニシなどを主とする堀之内式期のもので、表土中に加曽利B式土器もあると報告されている。(註11)

左岸では東に大きく伸びた支谷の枝谷を東西にはさむ舌状台地に、犢橋貝塚がある。この貝塚は典型的な馬蹄形貝塚で、径約160m～170mを測り、称名寺・堀之内・加曽利B・安行Ⅰ・安行Ⅱ・安行Ⅲa・安行Ⅲb・大洞B・大洞C式土器を含むが、晩期に貝層があるか否かは確認されていない。これより西に1.5kmほどのところに茅山式期の原屋敷貝塚(141)があり、さらに0.5kmほど下がった東に向う支谷から分れた枝谷に面して、同じく茅山式期の植野(142)と鶴牧(143)両貝塚が点在する。

(6)　汐田川沿岸(付図7参照)

川口から1km強さかのぼると大きく二またに分れ、宮野木川と園生川となる。この宮野木川の両岸台地縁辺は早・前・中・後期にわたる貝塚集落の密集地域であった。右岸にある鳥込台(145)・鳥込東(146)・鳥込(147)・鳥込西(148)・エゴダ(149)はいずれも貝層中または貝ブロックに茅山式土器を伴なう。このうち鳥込台遺跡出土の土器は稲荷台・三戸・野島・茅山下層・茅山上層・諸磯・浮島・加曽利EⅡ・堀之内・加曽利B・安行Ⅲaである。(註12)またエゴダ遺跡では田戸上層・子母口・野島・茅山上層・関山・黒浜・諸磯・浮島・興津・十三菩提式期が報告されている。(註13)

次に左岸には谷津台(153)・小中台A(152)・東ノ上西(151)・東ノ上東(150)がある。このうち谷津台貝塚は田戸上層・茅山・関山・黒浜・諸磯a・諸磯b・浮島・興津・五領ケ台・阿玉台・勝坂・加曽利E・堀之内式期の土器が検出されたが、貝層は前期前半の関山式と黒浜式期であることが確認された。(註14)小中台A遺跡では加曽利E式期の竪穴住居址に貝ブロックが発見された。(註15)東ノ上西は点在貝塚、東ノ上東は点在馬蹄形貝塚で、両者ともに堀之内・加曽利B式期の遺跡である。

一方園生川沿岸では谷奥の園生(154)と向原(155)以外に貝塚は認められない。両貝塚はともに汐田川の川口から川ぞいに測って約3.5km上流の支谷を望む台地にあって標高25m前後である。

園生貝塚は前述の犢橋貝塚とともに古くから知られた大型馬蹄形貝塚で、貝塚の内側の径約55m～80m、外径約130mを測る。貝層は厚いところで2mを超え、下位からイボキサゴを主体とする層、オキアサリを主体とする層、イボキサゴ・オキアサリがほぼ等量にある層の順に堆積する。遺跡から出土する土器は加曽利EⅡ・堀之内・加曽利B・安行Ⅰ・安行Ⅱ・安行Ⅲa

・安行Ⅲｂ式であるが、貝層形成の時期は後期であろう。西村正衛氏の報告によると、「貝層の東端にある祠を基点として南へ10ｍをＡ地点とし、西へ30ｍの地点をＢとして発掘」したところ、Ａ地点からは堀之内式・加曽利Ｂ式・安行式が採集され、Ｂ地点の下部貝層から堀之内式、上部貝層から安行式が層位をなして発見されたとある。（註16）

（千葉市文化財保護審議委員会会長）

（脚　註）

註１　飛ノ台貝塚発掘調査団『飛ノ台貝塚』昭和53年。

註２　日本住宅公団東京支所・千葉県都市公社『飯山満東遺跡』昭和50年。

註３　船橋市教育委員会・高根木戸遺跡調査団『高根木戸』昭和46年。

註４　船橋市教育委員会『高根木戸北』昭和46年。

註５　千葉県教育委員会『印旛・手賀沼周辺地域埋蔵文化財調査』（本編）昭和36年・千葉県教育委員会『海老ケ作貝塚』昭和47年。

註６　船橋市教育委員会『薬円台遺跡』昭和55年。

註７　船橋市教育委員会『宮本台』Ⅰ　昭和49年。

註８　習志野市教育委員会『習志野市藤崎堀込貝塚』昭和41年・昭和52年。

註９　千葉市教育委員会「大道遺跡」『千葉市文化財調査報告書』第４集　昭和56年。

註10　昭和63年千葉市文化財調査協会の横田正美氏は加曽利ＥⅢ・加曽利ＥⅣ式期の馬場塚遺跡を発掘して６ケ所の土壙の中の１ケ所に貝ブロックがあったという。

註11　千葉県教育委員会『印旛・手賀沼周辺地域埋蔵文化財調査』（第１次）昭和35年。

註12　千葉市教育委員会『千葉市埋蔵文化財分布地図』昭和59年。

註13　千葉市遺跡調査会『エゴダ遺跡』昭和57年・国際企画開発株式会社『エゴダ遺跡』昭和60年。

註14　千葉市遺跡調査会『谷津台貝塚』昭和57年。千葉県文化財センター『千葉市谷津台貝塚』昭和58年。

註15　千葉県文化財センター『千葉市小中台遺跡』昭和62年。

註16　西村正衛「千葉県都賀村園生貝塚」『日本考古学年報』1.　昭和26年。

船 橋 市

№ 通し№	№ 市町村別	県埋文分布地図№	貝層・貝ブロックを含む遺跡	所在地	早期	前期	中期	後期	晩期
112	10	30-114	飛の台	海神町飛ノ台	■				
113	11	31- 53	上高根	高根町上高根 1240～1220番地				■	
114	12	31- 55	唐沢台（東台）	高根町1490～1494番地		■			
115	13	31- 50	高根木戸北	習志野台1丁目 939番地他			■	■	
116	14	31- 51	高根木戸	習志野台1丁目 830～867番地			■		
117	15	31- 57	上飯山満南（上飯山満）（かみはざまみなみ）	芝山字東			■		
118	16	31- 58	飯山満東（はざまひがし）	飯山満町1丁目		■			
119	17	31- 59	取掛	飯山満町 取掛		■			
120	18	31- 60	取掛西	飯山満町1 1丁目1300番地		■			
121	19	31- 64	沢之谷	七林町沢之台			■		
122	20	31- 76	薬園台	薬円台町1丁目			■	■	
123	21	31- 77	滝台	田喜野井5丁目 18番地				■	
124	22	31- 80	中野木台	中野木町新山 251番地			■		
125	23	31- 87	宮本台（貝殻ボツコミ）	東船橋3丁目 26号・15号				■	
126	24	31- 40	海老ケ作	大穴町海老ケ作 955～956番地			■		
127	25	31- 90	三山	三山町2丁目				■	

を含む遺跡一覧表（太線は貝層・貝ブロックの形成時期）

土器の型式	規模	備考	主要文献
野島・鵜ケ島台・茅山下層・花積下層・関山・黒浜・加曽利E・曽利	点在	発掘消滅	杉原荘介「下総飛ノ台貝塚報告」（『考古学』）10巻　昭和14年 飛ノ台貝塚発掘調査団『飛ノ台貝塚』昭和53年
堀之内・加曽利B・安行IIIa	点在	一部残存	船橋市教育委員会『船橋市の遺跡』昭和38年 千葉県文化財保護協会『千葉県の貝塚』昭和58年
茅山・黒浜・諸磯	点在	一部消滅	船橋市教育委員会『船橋市の遺跡』昭和52年 千葉県文化財保護協会『千葉県の貝塚』昭和58年
勝坂・阿玉台・加曽利EI・II・III・堀之内・加曽利B	点在馬蹄形標高27m	発掘消滅	船橋市教育委員会『高根木戸北』昭和46年
勝坂・阿玉台・加曽利I・II・III	点在馬蹄形標高27m	完掘消滅	高根木戸遺跡調査団『高根木戸』昭和46年
阿玉台・加曽利E	地点	発掘消滅	船橋市教育委員会『船橋市上飯山満貝塚発掘報告書』昭和41年
夏島・稲荷台・黒浜・諸磯a・b・c・浮島I・II・III・五領ケ台・勝坂・加曽利EI・II・加曽利B・安行I	点在	発掘消滅	日本住宅公団東京支所・千葉県都市公社『飯山満東遺跡』昭和50年
関山	地点	消滅	船橋市教育委員会『船橋市の遺跡』 昭和52年・62年
関山・黒浜・加曽利E	点在	一部残存	千葉県文化財保護協会『千葉県の貝塚』昭和58年
加曽利E	地点	発掘消滅	沢之台遺跡調査団『沢之台遺跡』昭和55年 船橋市史編さん委員会『船橋市の遺跡』昭和62年
諸磯a・阿玉台・加曽利E・称名寺・堀之内I・加曽利B・安行II・IIIa	点在	発掘消滅	船橋市教育委員会『薬円台遺跡』昭和55年
加曽利E・堀之内・加曽利B・安行I・II	点在	消滅	船橋市教育委員会『船橋の遺跡』 昭和52年・62年
阿玉台・加曽利E	地点	一部残存	船橋市教育委員会『船橋市の遺跡』昭和52年 船橋市教育委員会『中野木台遺跡』昭和57年
称名寺・堀之内I・II 加曽利BII	点在馬蹄形	発掘消滅	船橋市教育委員会『宮本台』I・II　昭和49年
勝坂・阿玉台・中峠・加曽利I・II・III・堀之内	点在馬蹄形標高27m	発掘半壊	金子浩昌『印旛・手賀沼周辺地域埋蔵文化財調査』昭和36年・八幡一郎『海老ケ作貝塚』昭和47年・海老ケ作貝塚第2次発掘調査団『海老作貝塚』昭和50年
加曽利E・堀之内・加曽利B・安行I・II	地点	発掘消滅	船橋市史編さん委員会『船橋市の遺跡』昭和62年

習 志 野 市

№ 通し№	№ 市町村別	県埋文分布地図№	貝層ブロックを含む遺跡	所在地	早期	前期	中期	後期	晩期
128	1	31-13	藤崎堀込	藤崎2丁目161番地			―	―	
129	2	31-15	東宮	藤崎2丁目217番地				―	
130	3	31-2	谷津	谷津6丁目				―	
131	4	31-28	屋敷	屋敷5丁目				―	―
132	5	31-22	花咲	花咲2丁目	―				

千 葉 市

№ 通し№	№ 市町村別	県埋文分布地図№	貝層ブロックを含む遺跡	所在地	早期	前期	中期	後期	晩期
133	1	31-58	清水作	幕張町清水作台3丁目	―				
134	2	31-60	奈良熊	武石町1丁目1600			―		
135	3	31-54	奈良熊南（武石）	武石町1丁目			―	―	
136	4	40-63	椎崎	幕張町4丁目 1901番地他					
137	5	40-46	大道	幕張町1丁目 4041番地他	―	―			
138	6	31-30	城山（長作城山）	長作町城山	―				
139	7	31-78	坊辺田	長作町塚原 2095～2257番地				―	
140	8	31-22	築地（長作築地）	長作築地 321～357番地				―	
141	9	40-81	原屋敷	畑町原屋敷台畑 1925番地	―				
142	10	40-83	植野	畑町上町1592番地	―				

土器の型式	規模	備考	主要文献
加曽利EⅡ・Ⅲ・称名寺・堀之内Ⅰ・Ⅱ・加曽利BⅠ・Ⅱ・安行Ⅰ・Ⅱ	馬蹄形	発掘保存 一部消滅	習志野市教育委員会『習志野市藤崎堀込貝塚』昭和41年 習志野市教育委員会『習志野市藤崎堀込貝塚』昭和52年
堀之内	地点	一部残存	千葉県文化財保護協会『千葉県の貝塚』昭和58年
堀之内・加曽利B	地点	〃	千葉県文化財保護協会『千葉県の貝塚』昭和58年
加曽利E・堀之内	馬蹄形	消滅	『千葉県遺跡調査報告書』昭和40年度
茅山	地点	発掘消滅	「習志野市花咲貝塚調査報告」（『習志野市文化財調査報告書』Ⅳ） 堀部昭夫「習志野市花咲貝塚調査概報」（『貝塚博物館紀要』4号）昭和46年

土器の型式	規模	備考	主要文献
鵜ケ島台・茅山	地点		千葉市立高社会研究クラブ『縄文早期の遺跡』昭和46年
加曽利E	点在	一部消滅	千葉県文化財保護協会『千葉県の貝塚』昭和58年
加曽利E・堀之内・加曽利B	点在		伊藤和夫・金子浩昌『千葉県石器時代遺跡地名表』昭和34年
縄文（中期？）	点在		千葉県文化財センター『千葉県埋蔵文化財分布地図』2. 昭和61年
鵜ケ島台・茅山下層・茅山上層・入海Ⅱ・花積下層	貝ブロック 点在	発掘消滅	千葉市教育委員会「大道遺跡」（『千葉市文化財調査報告書』第4集）昭和56年
茅山上層	地点	発掘消滅	千葉県教育委員会『印旛・手賀沼周辺地域埋蔵文化財調査』第1次　昭和35年
堀之内・加曽利B・安行Ⅰ・Ⅱ	点在		伊藤和夫・金子浩昌『千葉県石器時代遺跡地名表』昭和34年
堀之内・加曽利B・安行Ⅱ	馬蹄形	発掘半壊	千葉県教育委員会『印旛・手賀沼周辺地域埋蔵文化財調査』第1次　昭和35年
茅山	点在	一部消滅	千葉県文化財保護協会『千葉県の貝塚』昭和58年
茅山	点在		千葉県文化財保護協会『千葉県の貝塚』昭和58年

№ 通し№	市町村別	県埋文分布地図№	貝層ブロックを含む遺跡	所在地	早期	前期	中期	後期	晩期
143	11	40-127	鶴牧	畑町鶴牧	―				
144	12	40-137	犢橋	犢橋町さつきが丘 1番地-18				―	
300	108		馬場塚	犢橋町1569番地			―		
145	13	40-117	鳥込台	宮野木町15番地-18	―				
146	14	40-119	鳥込東	宮野木町鳥込53番地	―				
147	15	40-118	鳥込	西小中台町鳥込	―				
148	16	40-1233	鳥込西	小仲台町鳥込	―				
149	17	40-169	エゴダ	小仲台町エゴダ	―				
150	18	40-159	東ノ上東	小仲台町61番地				―	
151	19	40-181	東ノ上西（東ノ上）	小中台町東ノ上				―	
152	20	40-162	小仲台A	小中台町谷津25番地			―		
153	21	40-160	谷津台	小中台町谷津台 563番地		―			
154	22	40-180	園生（長者山）	園生町543番地-1他				―	
155	23	40-187	向原	園生町向原 1004～1010番地			―		

土器の型式	規模	備考	主要文献
茅山・加曽利E	点在	発掘 一部残存	千葉市『千葉市誌』昭和28年
称名寺・堀之内・加曽利B・安行Ⅰ・Ⅱ・Ⅲa・Ⅲb・大洞BC	馬蹄形	発掘保存	芹沢長介「千葉県千葉市犢橋貝塚」(日本考古学協会『日本考古学年報』15. 昭和36年) 芹沢長介『千葉県千葉市犢橋貝塚(第2次)』(日本考古学協会『日本考古学年報』昭和44年
加曽利EⅢ・加曽利EⅣ	貝ブロック 点在	消滅	千葉市文化財調査協会横田正美発掘 昭和63年
稲荷台・三戸・野島・茅山下層・上層・諸磯・浮島・加曽利EⅡ・堀之内・加曽利B・晩期	点在	発掘 消滅	千葉市教育委員会『千葉市埋蔵文化財分布地図』昭和59年
茅山・加曽利E	点在	発掘 消滅	神尾明正『千葉市鳥込東貝塚発掘略報』(千葉県文化財調査報告書)昭和39年
茅山	点在	発掘 保存・一部残存	内野芙三夫他『鳥込貝塚』(鳥込発掘調査団)昭和46年
茅山	点在	消滅	千葉県文化財センター『千葉県埋蔵文化財分布地図』2. 昭和61年
田戸上層・子母口・野島・茅山上層・関山・黒浜・諸磯・浮島・興津・十三菩提・加曽利B	貝ブロック 点在	発掘 消滅	千葉市遺跡調査会『エゴダ遺跡』昭和57年 国際企画開発株式会社『エゴダ遺跡』昭和60年
堀之内・加曽利B	点在馬蹄形	一部消滅	千葉市『千葉市誌』昭和28年
堀之内・加曽利B	点在	消滅	千葉市『千葉市誌』昭和28年
加曽利E	貝ブロック 点在	発掘 一部残存	千葉県文化財センター『千葉市小中台遺跡』昭和62年
田戸上層・茅山・関山・黒浜・諸磯a・b・浮島・五領ケ台・阿玉台・勝坂・加曽利E・堀之内	点在	発掘 消滅	千葉市遺跡調査会『谷津台貝塚』昭和57年 千葉県文化財センター『千葉市谷津台貝塚』昭和58年
加曽利EⅡ・堀之内・加曽利B・安行Ⅰ・Ⅱ・Ⅲa・Ⅲb	馬蹄形	発掘 保存	西村正衛「千葉県都賀村園生貝塚」(日本考古学協会『日本考古学年報』1.)昭和26年 千葉大学文理学部地質学教室・人文地理学教室『園生貝塚』昭和29年 神尾明正「千葉県千葉市長者山貝塚」(日本考古学協会『日本考古学年報』5.)昭和32年 神尾明正「千葉県千葉市園生貝塚」(日本考古学協会『日本考古学年報』7.10.12.)昭和33.38.39年
加曽利EⅣ	地点	消滅	千葉県文化財保護協会『千葉県の貝塚』昭和58年